



今月の話題

- 中南米耐震工学研修の実施に向けて
- 関西研修旅行レポート
- 満開の桜の下で、ランチを楽しむ
- 研修生からの手紙
- 関西研修旅行スナップショット

研修 データベース

IIESENET(地震防災技術情報ネット)

IIESEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

中南米耐震工学研修の実施に向けて

国際地震工学センター長 横井 俊明、上席研究員 犬飼 瑞郎

中南米(ラテンアメリカ)諸国は地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物倒壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生しています。建築研究所は、これまでメキシコ、ペルー、チリ、エルサルバドル、ニカラグア等で、国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクトとして、耐震工学関係の技術協力を実施してきました。また、国際地震工学センターでは、それらの国々以外の中南米諸国からも大勢の研修生を受け入れてきました。

ところが近年、東日本大震災以降のODA予算の方針により、中南米諸国では従来のような技術協力プロジェクトよりも、人材育成型の協力が置かれるようになりました。このような状況と、この地域が元々英語圏ではないことを考慮し、建築研究所では、平成25年度、スペイン語による耐震工学の短期コースの開催をJICAに提案し、本年6月、7月に実施の運びとなりました。

今年度は喜ばしくも4カ国から14名が研修に参加予定です。来年度はもっと多くの国からもっと多くの方が本研修に応募してくれることを期待しています。

関西研修旅行レポート

(1) Mr. Faouzi Gherboudj (アルジェリア、地震学コース)

今回の研修旅行は、関西方面を訪れる貴重な機会となりました。訪問先には大阪、神戸、そして京都の主要都市3つが含まれます。

この4日の間に、有名な野島断層とその保存館、実大三次元震動破壊実験施設(Eディフェンス)の世界最大の震動台、そして世界最長の吊り橋である明石海峡大橋など、興味深い特別な場所を見て回ることができました。1995年の兵庫県南部地震は有名で、倒壊された高架式の阪神高速道路の映像は世界中の新聞の一面を飾りました。神戸では、高層ビルやインフラの整った美しい都市を再建するために、日本がいかに尽力したかを実感しました。



神戸が日本の災害に対する政策のシンボルであることがよくわかりました。災害準備や災害軽減に関する知識は、どの国にとっても、進歩・発展のために必要不可欠なものです。

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

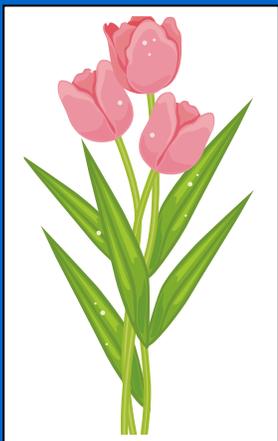
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



(2) Mr. Mukunda Bhattarai (ネパール、地震学コース)

今回の関西旅行で、大阪、神戸、京都を中心に研修視察を行ってきました。世界最大の吊り橋や震動台を間近に見学ができるとても素晴らしい機会でした。大阪市では、上町断層帯によってできた表面地形を見学しました。

また、1995年に発生した阪神淡路大震災のシミュレーション体験や野島断層は、地震災害の甚大さを脳裏に刻み込ませました。神戸市にある「人と防災未来センター」では、震災後の再建の効果と復興の流れと、生存者の思いを知ることが出来ました。



古都京都ではなかなか見ることのできない貴重な建築物や文化、そして国家遺産の保存方法について学ぶことが出来ました。

この研修旅行を通して、建物や橋梁、木造建築における地震安全対策についての知識を学ぶだけでなく、地質断層の効果や地震発生時のメカニズムについても学ぶことが出来ました。

また、技術的進歩や能力開発、そして社会の認識が日本における巨大地震災害を軽減する重要な特性であることに気づきました。

(3) Mr. Nurpujiono (インドネシア、津波防災コース)

関西方面への研修旅行はとても有益でした。特に「稲むらの火」という物語に非常に感銘を受けました。それは、浜口梧陵の精神とその功績を学び後世に伝えるために作られた物語です。浜口梧陵は、稲むらに火をつけることによって津波から村民を救ったことで知られています。日本の人々は過去の災害を重んじそこから学ぶことによって、被災者を減らしています。



日本政府は南海トラフ沿いで予測される大規模地震に対峙するための施設づくりに高い関心をもっています。吉田町の歩道橋型津波避難タワーは大印象深いものでした。日本政府は、災害に備えることで、人命を救い、財産を守り、人々の未来を支援する政策を考えています。

堤防、護岸、水門、防潮堤そして津波避難タワーのような施設は私の国にはまだありません。地震や津波の多い私の国でも、いつの日か、防災に関して日本にならう日が来ることを望んでいます。

満開の桜の下で、ランチを楽しむ

4月4日(金)、IISEEでは、花見ランチ会を開催しました。前日は雨でしたが、満開の桜と和風弁当で大いに盛り上がりました。新しく入った小豆畑上席研究員、藤沼さん、前田さんの自己紹介もありました。



楽しむのは今です。

IISEE の建物の周りは桜の木が多く、その桜の木は、4月初旬に満開になります。ちょうど見ごろでした。桜はきれいですがその満開の時期は短いものです。花見は日本人にとって伝統的な季節の風物詩です。人々は家族、友人、同僚と桜の花の下で飲んだり食べたりして楽しく過ごします。国際地震工学センターの職員も、美しい桜の花の下で研修生と大変よい時間を過ごすことができました。



花見ランチ会

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

研修生からの手紙

✉ Prof. Florin-Ermil DABIJA, ブカレスト工科大学名誉教授
(ルーマニア、地震工学コース 1966-1967)

ルーマニアのダビジャ名誉教授から、カナダのシェルダン・チェリー先生の御逝去の報に対し心温まるお言葉を頂きました。ダビジャ氏のご了解のもと、そのメールを下記に掲載させていただきます。

「1966年～1967年の研修期間、私は IISEE の地震工学研修生の1人として、チェリー先生の素晴らしい講義を受ける機会に恵まれました。当時先生はユネスコ専門家として在席されていました。

10年後、チェリー先生は、1977年3月4日にルーマニアで発生した非常に大きな地震(M=7.2)の後にルーマニアを訪問されました。その機会に、先生にお目にかかり、大変親しく、一般的なこと、技術的なことなど多くのことを話し合いました。また、1990年初期、チェリー先生は、ブカレスト工科大学(現在は総合大学になりました。)に、最新の建築物の耐震設計に関する沢山の本や雑誌を送って下さいました。これらの先生のご支援に大変感謝申し上げます。

先生のご逝去の報せに接し悲しみに耐えません。大切な友人を失った気がします。ご冥福をお祈りいたします。」

読者の皆様:

IISEE ホームページは、システムへの不正侵入により、3月24日から閉鎖しております。皆様には大変ご迷惑・ご心配をおかけし、心よりお詫び申し上げます。皆様のご支援と、世界中の再開要請を受け、段階的にホームページを再開いたします。データベースの幾つかは現在も接続できません。それらについては現在も再開の努力を続けております。皆様方にご不便をかけしていることをお詫び申し上げますと共に今しばらくのご猶予をお願い申し上げます。

国際地震工学センター

関西研修旅行スナップショット



E-ディフェンス
(三木市)



免震システム
(ダイワハウス)



明石海峡大橋ツアー

兵庫県

和歌山

つくば

東京

大阪

京都



津波避難タワー
吉田町(静岡県)



耐久社
(浜口梧陵が開設した私塾)



清水寺見学



清水寺